

(第 144 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2023 年 8 月 8 日 (火)	出席者	大谷宏・山崎博・松村眞・猪股勲
時間	15 時—17 時	敬称略	宮本公明・神田稔久
場所	かながわ県民センター 705 会議室		
技術課題	登校困難生徒に向き合って—M中学校における実践— (神田)		
内容	登校困難生徒に向き合って—M中学校における実践— 1. 全国の小・中学校における不登校の状況 2. 全国の不登校児童・生徒の実態調査の結果 3. 国の不登校児童生徒への支援施策 4. 東京都内の小・中学校における不登校の状況 5. 町田市内の小・中学校における不登校の状況 6. M中学校における不登校生徒への支援		
発表者 コメント	発表者からのコメント 成果 M中学校の不登校生徒対策としての不登校生徒支援教室の開設は、不登校問題が社会問題化する以前の先導的な取り組みであった。 町田市の不登校生徒出現率は東京都平均にほぼ等しい中で、M中学校の不登校生徒出現率は町田市平均より高くなっていた。 その中で不登校生徒支援教室で学ぶ生徒の数も年々増加し、不登校生徒の家庭以外での“居場所”としての役割を果たしてきた。 課題 現状は、不登校生徒支援教室で学ぶ生徒の割合は不登校生徒全体の半数以下に留まっているため、さらなる対策が望まれている。 そのためには、関係者間での不登校対策に関する施策の理解と共有化が望まれる。特に、教育の機会の確保等に関する法律の施行と、それに伴う、国・都道府県・市区町村の施策の理解と実行が肝要である。 不登校対策は登校至上主義ではなく、多様な選択肢があることの理解が大切であり、その一つとしての不登校生徒支援教室の活用は、不登校生徒やその保護者、および教員に広く周知される必要がある。 不登校対策の鍵は早期発見・早期対応であり、教師・保護者の迅速な対応が求められる。そのためには、硬直的で形式的でない生徒中心の対応が求められる。 不登校の原因が多様であり、多様で柔軟な対策が求められる中で、不登校生徒支援教室の役割も多様化している。その役割は、家庭以外の居場所であり、学習の場であり、コミュニケーションの場であり、安心の場であり、家庭と学校との絆でもある。ただし、限られた時間と場所と人員の中での対応には困難さも多い。		

<p>参加者 コメント</p>	<p>参加者および会員からのコメント (宮本 公明)</p> <p>日頃から神田さんが苦勞されていることがよくわかる発表でした。不登校については二つの観点があると思いました。一つ目は「なぜ学校に行けないの」という対策とからんだ観点。二つ目は、「そもそも不登校のどこがいけないの」という、根源的な疑問です。</p> <p>一つ目の疑問に関して、こどもの「居場所」という言葉がキーワードとしてでてきます。その裏返し「不安感」といったかれらの感じている学校や集団生活への感情です。これらは、昔は、なかの良い友達、情熱溢れる先生といった存在がぬぐい去ってくれたのではないかと思います。最近のように個人主義が強くなると、一旦生じた集団への不安は減衰させることが難しいのではと思います。このようななかでは、支援学級といった「居場所」を提供する活動に意味があると思います。</p> <p>二つ目については、不登校が全て悪いわけではないという意見です。神田さんも仰っておられるように、登校至上主義ではいけません。たとえば、東大卒でイェール大学助教の成田悠輔氏は小中学校で不登校でした。結局不登校をどう乗り切れるかが重要ではないかと思に至ります。ただ、神田さんのデータにあったレベル5の人たちはなかなか復帰できないのではと想像されます。また、それこそが社会の損失とも言えると思います。</p> <p>このように考えると、不登校の経験から復帰するあるいは悪化する状態の変化や「居場所」の提供による気持ちの変化をトレースすることが大事ではないかと考えます。傍観者の発言で恐縮ですが、神田さんにはそのような分析をお願いしたいと思います。(宮本)</p> <p>(大谷 宏)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 神田さんが奥さんともども、不登校で苦しんでいる子供たちやその両親達のために、真剣な活動をしておられることに、まず、心から敬意を表したいと思います。 * 不登校問題は、そんな問題には関係しない多くの親子さん達にとっては、「何でそんな問題が起こるのか？それは親の教育方針が悪いからではないか？」と考えたりする問題です。しかし、そのような考えは、明らかに間違っていると思います。 * 我が国では現在、1年に80万人以下の子供しか生まれていません。もし、その中で数%の子供が不登校になり、大きくなっても家に引きこもり、一切の社会活動をしないような社会になってしまったら、当然、わが国の活力は大幅に低下してしまい、世界的に見て我が国の存在感は益々薄れていってしまうことになるでしょう。 * しかし、その一方、国力の低下の原因を“すべて不登校問題”のせいにするのは間違いでしょう。新生児の数の減少は、日本人の結婚の晩婚化とか少子化の問題であり、不登校問題と直接かかわっているとは思えません。 * どうやら、日本においては、“不登校問題”に関する社会学的研究が大きく遅れているのではないのでしょうか？ * “不登校問題”はとても悩ましい社会問題であることは間違いのないところですが、不登校問題をどのような枠組みで議論して行ったら良いかが全く分からないのです。公立学校における一部の不登校者のデータはあるにしても、公立・私立を合わせたデータが存在していない様にも見えます。又、不登校者問題が国の経済や社会にどのような影響を与えているのか、更には、不登校問題が発生する社会的原因がどのような所にあるのかが正確には分かっておりません。 * このようなことを考えると、神田さんの不登校問題に対する活動は大いに評価すべきことは言を俟ちませんが、不登校問題に関するもっとマクロ的、総合的な情報や状況が明らかにならないと、日本社会の不登校問題に関する適切な対応について議論をするのはなかなか難しいのではないかと感じた次第です。
---------------------	--

(松村 眞)

神田さんが M 中学校の不登校対策に取り組んでおられることと、かなり多くの時間を割いておられるのに感心しました。ボランティア活動は言うのは簡単ですが、実行するのは大変ですね。せっかちな私には、とてもできそうにありません。神田さんの動機と充実感がどこからくるのか知りたくなりました。以下が私のコメントです。

- ① 資料1によると、最近の数年間で不登校の生徒数が大幅に増えているのに驚き、原因が気になりました。特に中学生が問題ですね。相談や指導を受けた生徒数は伸びていますが、不登校の生徒数が減らないのがなぜでしょう。
- ② 資料2には、「最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ」が詳しく書かれているのに気がつきました。字が小さくて事前には読み取れなかったのですが、拡大鏡を使ってみると具体的によく解りました。同じ理由で経年変化を見ると時系列的な傾向が見やすくなるのではないのでしょうか。
- ③ 資料2には多くの理由が書かれていますが、割合が高いのは半分の8項目ぐらいです。したがって項目を選んで対策の選択と集中化すすめ、不登校者率の低減効果を確認できないでしょうか。関係者の理解と協力を得るのにも有効ではないかと思いますが。
- ④ 不登校の結果として中学を卒業できなければ、その後の進学困難、就職困難、貧困、劣等感、孤独、引きこもりなどになる確率が高くなるでしょう。でもその状況を本人が理解できるようになるのは10年以上も先でしょう。したがって、周囲はもっと早くから想定される将来状況を説明し、安易に不登校を選ばないように戒める必要もあると思います。郊外学習や居場所作りも、出席にカウントできる方法が第1優先に思います。

(猪股 勲)

神田さんご夫妻の地域と密接に協力した、不登校に対する様々なボランティアの取り組みの努力にとっても感銘を受けました。

不登校の子供たちの問題はずいぶん以前から取り上げられていますが、神田さんの発表をお聞きして、むしろ、行政としては、様々な仕組み・取り組みが整備されている事に、チョット驚きました。ただ、それにもかかわらず、不登校の子供たちの増加が続いているという事実を考えると、行政からの取り組みの姿勢に本質的に問題があるのかとも感じました。神田さんご自身が肌で感じられた不登校の取り組みの難しさ、繊細さなど、現場での経験を踏まえた、画一的ではない血の通った取り組みの必要性を感じました。

不登校はすべて悪い・減らせばよいといったことではない、子供たちに即した対策の充実を期待したいと思います。

(山崎 博)

私が戦後に田舎の公立の小中学校に通っていた頃には、同級生で不登校の生徒は一人も居なかったと記憶しています。どうしてこの様に不登校が増えたのでしょうか。最近の小中学校生の不登校のきっかけは多様ですが、①友達や先生との関係のストレス、②勉強に付いていけないストレス、③生活リズムの乱れと身体的な不調のストレス、が不登校のきっかけになっているようです。意外なのは、友達からの“いやがらせ”、や“いじめ”がきっかけで不登校になるケースはむしろ少ないということです。

一方で、学校を休んでいる間の気持ちでは、①勉強の遅れの不安、②進路・進学への不安、の一方で、③自由時間の増加と強制からの解放がうれしい、としています。不登校によって、不良グループの仲間に加わり犯罪を犯すなどは最悪のケースですが、不登校の生徒が通える学校や支援センターも最近充実してきており、e-ラーニングによる学習支援やフリースクールなども利用できるようになってきたので、選択肢が広がっています。高校生の不登校がどうなっているのか、今回は分かりませんが、“大人のひきこもり”は大きな家庭問題、社会問題ですので、対策を含めて中学高校での不登校との関連も調べて欲しいと思います。

(西村二郎)

* 私はこのテーマに重大関心を持っています。私が所属している NPO”DirectForce”には Over80 の会があり、80 才を越すと、何となく、居心地が悪くなる各種勉強会・研究会に、大威張りで残留できます。その会の最初のテーマが小学校教育です(まとめの段階に入りました)。「不登校」が何故おきるか。それは、我々も、自分の体験を通して、ある程度分かっているのではないのでしょうか。それを思い出すのです。とはいえ、皆様は小学生時代、優等生であって、楽しく過ごした方々ばかりでしょう。楽しい小学校生活は、楽しい中学、高校、大学へと繋がり、社会に出てからも、充実感のある生活を送られたと思います。しかし、一歩間違えば、不登校になる危険性もあったと思います。私自身、昭和 18 年 4 月、東京府・赤坂区立青南国民学校に入学し、一学期は無難に過ごしましたが、二学期の中頃から登校が嫌になったことがあります。そのとき、雨が降ったとき、傘の中に入れてあげた行為を担任の先生に褒められ、学校が満更でもなくなりました。二学期末、松江市に移住し、普通の小学校に入学しました。チビでひ弱な感じの都会っ子はイジメの対象となりました。しかし、新年早々、私の描いた戦争画が入選し、全校で二人だけ、朝礼で表彰されました。陸軍省から 5 円貰ったのも嬉しかったです。が、級友から一目置かれ、漫画を描く注文が入るようになりました。以来、学校は快適な場所になり、好きだった図画工作以外でも頭角を表し、益々、学校好きになりました。思うに、小学校で大切なことは、学業の不出来を問題視するのではなく、誰もが持っている特性を認め伸ばすことではないのでしょうか。そんな思い出話を何時か、皆様と出来ればと思っています。炎天下、故郷の宍道湖で湖水に浸かり、帰宅したばかりとはいえ、寝込んでしまい、大切な神田さんのお話が聴けず残念でした。

発表者からの追加のコメント

会員の皆さまから多くのコメント頂きました。それらへの回答にはなっていませんがコメントを追記させていただきます。

不登校問題が重大な問題であり、本来であれば少子化対策と並行して議論されるべき課題にも関わらず、取り上げられてこなかった背景に、原因が多岐で同様に解決策も多様で、政策効果が見えにくいため、官僚や政治家の関心と呼ばなかったことと、教育関係者に、「不登校は教育の失敗の結果」と言うような偏見があることがあるように思われます。

一方で、政策としてテーマアップするためには、マクロ的アプローチ、即ちデータの不足・分析の浅さ・公立校と私立校の問題などやるべき課題が山積しています。

実は、不登校は、どの家庭でも、どの子にでも起こる問題で、不登校は悪いことばかりではないと考え、普通のこととして落ち着いて対処することも重要と思います。同時に、不登校問題の解決策は不登校率を減らすことではなく、居場所を確保することと言う考え方の社会的受容も必要と思います。

中学校までの不登校と、高校・大学のでひきこもりとの関連は、きちんとした調査が行われていないようですが、不登校経験者の話では、高校・大学の過程で復帰した事例も多いようです。

良く聞く声に、“不登校生徒はさぼって学校に行っていない”と言うものがあります。いわゆる怠学ですが、確かに不登校の原因の中に、怠学が潜んでいます。ただ、これも何故怠学と言う状態になったかを考えないと対応を誤る危険性があります。

	<p>私が不登校教室を引き受けた背景に、自身が越境して入学した中学校に馴染めなかった苦い記憶があります。西村さんが戦後に青南小学校を卒業したら進んでいたはずの中学校ですが・・・その体験から、不登校の彼ら彼女らが登校を渋る理由が、少しは理解できるかなと思って続けています。</p>
幹事会 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT サポートと庶務を担当されていた鈴木さんが一身上の理由で退職された。IT 関連は後継者が見つかっているが、事務局業務は未定。 ・ 化工入門講座の SCE・Net の収益が約 50 万円となる見込み。 ・ インボイス制度の発効を控え講習会があった。適格請求書の作成に注意を要する。
今後の 予定	<p>10月の見学会は、(株)タツノ横浜工場を予定している。なお定例研究会は10月10日であるが、当日は休日で見学ができないため、前後の日に設定する。また、見学予約は、持田氏にお願いする。</p> <p>9月 持田氏 リモート方式 10月 見学会 (株)タツノ横浜工場 11月 山崎氏 リアル方式(701 会議室) 12月 猪股氏 リモート方式 1月 西村氏 リアル方式(704 会議室) 2月 宮本氏 リモート方式 3月 大谷氏 リアル方式 4月 松村氏 リモート方式 5月 神田氏 リアル方式</p>
次回日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 令和5年9月12日(火) 15時~17時 2. 方式 オンライン方式 3. 技術課題 持田氏提供
次々回 日程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日時 未定 2. 場所 (株)タツノ横浜工場